

《Lesson 3》 付加疑問文の主語

《付加疑問文とは》

(1) 一般的に付加疑問文で使われる短縮の疑問形の主語 (“was she?”の she の部分や、“can’t you?”の you 部分) には、

I / you / he / she / we / they / it といった代名詞しか使われない。

(2) そのため、前半の文の主語が「**固有名詞**」「**this/that/these/those**」「**his mother (彼の母親)**」のような代名詞以外の単語の場合、短縮の疑問形的主語に気をつける必要がある。

<例> Kenta can teach English, can’t **he**? (Kenta → he)

(ケンタは英語を教えられるのですよね)

That is not a library, is it? (this → it)

(これは図書館ではないですよね)

His mother can speak French, can’t she?

(彼の母親はフランス語を話せるのでしょ)

ポイント！ “I think that ~.” / “I don’t know that ~.” の文の際の注意事項

“I think that ~.” / “I don’t know that ~.” の文の際は、どこの部分の主語が短縮の疑問形になるのか注意する必要があります。

<例> Your mother thinks you are smart, doesn’t she? (aren’t you? = ×)

You didn’t know I was good at math, did you? (wasn’t I = ×)

本ファイルの著作権は、著作者である藤井拓哉に帰属します。本ファイルを利用したことによる直接あるいは間接的な損害に関して、著作者はいっさい責任を負いかねます。利用は利用者個人の責任において行ってください。